3 顧客のために

医療機関の業務をサポートするために、さまざまなシステムを展開しています

医薬品を自動発注する「ミザル」、製薬メーカーと医師をつなぐ「リモートディテーリングサービス」、冷蔵庫の温度管理を自動で行なう「オントレイシス クラウド」、音声入力で薬歴を作成する「ENIFvoice SP＋A」と「ENIFvoice Core」などをご紹介します。

薬局本部システムの「ミザル」で薬剤師の業務と薬局経営を効率化しています

「ミザル」は、調剤薬局チェーンの本部が各店舗の売上や在庫のデータをウェブブラウザ上から一元管理できるクラウド型薬局本部システムです。各店舗のレセプトコンピュータ（レセコン）からリアルタイムでデータを集約することができ、店舗でもデータの閲覧が可能です。「ミザル」にはとくに好評を得ている機能が２つあります。

ひとつは「自動発注機能」です。過去の処方データをもとに需要を予測して自動的に医薬品を発注します。従来型の発注システムは、自分で任意の在庫数（発注点）を決めて、それを下まわったときに発注するものでしたが、その方法だと、コロナ禍などで受診控えが起こったときは、在庫数を決めなおさなければなりません。「ミザル」は日々の処方データに応じて発注点が自動的に上下動するので、過不足のない発注が可能です。

予測によってまとまった量を発注するので、結果として配送される回数が減り、薬が届くたびに行なっている入荷作業（検品、入庫データ反映、棚入れ）の回数を減らせるのも利点です。空いた時間を服薬指導や在宅業務などにあてることができ、対物から対人へと業務をシフトできます。

もうひとつ支持されているのが「余剰在庫自動按分機能」です。各店舗の余剰在庫品を自動登録することができ、登録された医薬品は過去の使用実績をもとに受け入れ可能な店舗に自動的に振り分けられます。薬局チェーン全体で最適在庫を実現することができるため、経営の効率化につながります。

そのほか画面の表示をわかりやすくするなど、薬剤師の立場に立った使いやすさを日々向上させています。「ミザル」は2020年12月末時点で、約2,500店舗に導入されています。

「リモートディテーリングサービス」で製薬メーカーと医療従事者をつなげています

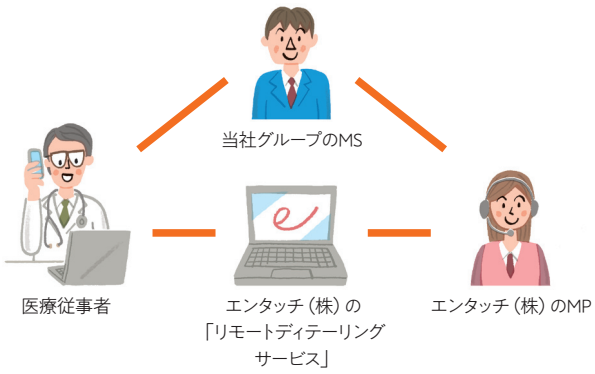
2020年８月、当社はエンタッチ（株）の株式の一部を取得し、資本提携をスタートさせました。エンタッチ（株）のMP（メディカルパートナー）は、製薬メーカーからの依頼を受けて、独自のオンラインシステムを用いて、医療従事者へ「リモートディテーリング（情報提供）」しています。従来は、製薬メーカーのMR（医薬情報担当者）が病院やクリニックを訪問して、薬の有効性や安全性を伝えていましたが、医薬品のプロモーションに対する規制が強化され、新型コロナウイルスの感染拡大もあって、直接面談する機会は大幅に減少しています。しかし、みなさまが必要とする正しい情報はいままでどおりお伝えしなければなりません。医療従事者との結びつきが強い当社のMSが、MPと医療従事者をつなぐことで、情報提供の場を設けています。医療従事者からは「好きな時間に聞きたい情報を聞けるので効率的」「画面上で資料を見られるうえ、その場で質問できてわかりやすい」などのコメントをいただいています。2020年12月末時点で、約1,500施設にご案内やご提案をしています。

「自動発注機能」の導入による業務改善

発注し忘れを気にせずにすみ、 患者さまへの対応を優先できる

MSがつなぐ「リモートディテーリングサービス」

パソコンや電話を使って医療従事者に情報を伝える



「オントレイシス クラウド」で病院の冷蔵庫の自動管理をしています

病院の業務のひとつに医薬品冷蔵庫の温度管理があります。多くの病院では、薬剤師や看護師、検査技師が、薬剤部や病棟、検査室の冷蔵庫を一日数回計測しています。この業務負担を軽減するために、わたしたちは2020年４月から、トッパン・フォームズ（株）が開発した温度管理プラットフォーム「オントレイシス クラウド」を取り扱っています。温度ロガーが冷蔵庫の温度を自動で計測し、管理者はその履歴をクラウド上で一元管理できます。温度が逸脱したときはメールで警告が届きます。ロガーは電池内蔵なので停電時でも計測が可能です。当製品の導入によって、各スタッフの業務が改善されるため、病院の経営効率の向上につながります。

「ENIFvoice SP＋A」と「ENIFvoice Core」で「かかりつけ薬剤師・薬局」をサポートします

●音声入力で薬歴と服薬指導の質の向上に寄与しています

薬歴とは、服薬指導の内容や服薬による副作用の有無などを記録したものです。薬歴の作成に時間がかかると、服薬指導に費やせる時間が短くなり、そのぶん薬歴に記載する情報も少なくなります。わたしたちはこの悪循環を防ぐために、音声認識による薬歴作成支援システム「ENIFvoice SP（エニフボイス エスピー）」を展開しています。マイクに向かって話すと音声が自動入力されるので、すばやく正確に薬歴を記録することができます。

「ENIFvoice SP＋A（プラスエー）」は、薬剤師の服薬指導業務の効率化を支援するために、音声認識に必要なユーザーデータをクラウド化しています。店舗内の複数のパソコンや他の店舗で作業するときも、使用者ごとに学習した音声認識を使用できます。「ENIFvoice」シリーズは、全国の調剤薬局と52の薬学系大学（教材として）で、2020年12月末時点で１万2,850台が導入されています。

●レセコン一体型でさらなる業務効率化をはかります

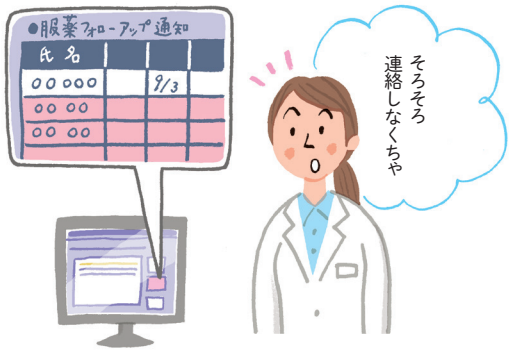
「ENIFvoice Core（コア）」は、「ENIFvoice SP＋A」で培った音声入力と音声操作を搭載した電子薬歴一体型のレセコンです。クラウドサーバーを活用して、どの店舗でも他店の薬歴情報を瞬時に閲覧できます。近年の水害では調剤薬局のパソコンが水没した事例がありましたが、「ENIFvoice Core」なら、すぐにクラウド上から薬歴情報を引き出すことができ、バックアップデータから復元も可能です。

2020年９月の薬機法改正では「服薬フォロー」が義務化されました。「ENIFvoice Core」にはフォローすべき頃合を知らせる機能があり、忘れずに患者さまに連絡できます。

2021年３月からはマイナンバーカードによる「オンライン資格確認」制度が始まります。「ENIFvoice Core」はカードリーダーと組み合わせることで、マイナンバーカードでの認証が可能で、保険証の情報を入力する手間が省けます。

これからもさまざまな業務の負担を軽減することで、みなさまが「かかりつけ薬剤師・薬局」として活躍できるよう、サポートしていきます。「ENIFvoice Core」は、2020年12月末までに497店舗に導入されています。

「ENIFvoice Core」による服薬フォローのサポート



POSレジの「Core-POS」で調剤薬局の物販を支援しています

調剤薬局は、OTC医薬品や健康食品の販売を通して、地域のみなさまの健康をサポートすることが期待されています。その際、レジをレセコンと連動させて調剤の会計も同時にできないと、業務がきわめて煩雑になってしまいます。この課題を解決するのが、レセコン連動型POSシステムの「Core-POS（ポス）」です。2020年12月末時点で459店舗に導入されています。2020年10月には「セミセルフバージョン」をリリースしました。薬剤師が現金に手を触れなくてすむので、新型コロナウイルスなどへの感染予防効果が期待できます。

「ENIFme」と「エニフナース」を通じて、訪問業務を手助けしています

「かかりつけ薬剤師・薬局」の要件のひとつに、「患者さまのご自宅に出向いて医薬品や医療材料を提供すること」があります。しかし、これまで医療材料（点滴用チューブや創傷被覆材、注射器など）は大きな包装での流通が一般的で、医療機関では保管スペースの問題もあり、多くの種類を常時揃えておくことは困難でした。「ENIFme（エニフミー）」は、「ENIF」で医療材料のバーコードを読み取るだけで、１包装単位の１個口からでも簡単に購入できるシステムです。2020年12月末時点で１万2,707施設で導入されています。

「エニフナース」は、訪問看護師がモバイル端末で音声入力を使って訪問看護記録を作成できるシステムです。いつでも、どこでも作業できるので、密を避けなければならないコロナ禍においてさらにニーズが高まってきています。